

大学図書館問題研究会京都支部第35回京都支部総会議案

【第 1 号議案】

2011 年度（2011.7～2012.6）活動総括及び

2012 年度（2012.7～2013.6）活動方針

1. 2011 年度活動総括

(1) 研究交流活動

2011 年度は、2 回以上のセミナー開催を年度目標とし、関西 3 支部新春合同例会も含め、この目標を実現いたしました。2012 年 1 月 14 日に開催した大図研関西 3 支部新春合同例会では、「もしドラッカーが大学図書館をつくったら」というテーマによるワークショップ形式のセミナーを開催し、26 名の参加者に来場いただき、参加者アンケートでも好評をいただきました。

また、6 月 2 日に開催したディスカバリーサービスを扱ったワンディセミナーでは、63 名というかつてない多数の参加者に足を運んでいただくことができ、大きな成功を収めることができました。加えてこのワンディセミナーは、全国大会へのプレ企画という面もあり、このワンディセミナーの成功が、全国大会への大きな弾みにもなりました。このセミナーがきっかけで、41 名来られた非会員のうち 1 名の方に新たに入会いただけたのも大きな成果でした。

広報については、昨年に引き続きメーリングリスト等への周知、京阪神の大学図書館等へのチラシやメールでの案内、Twitter アカウント「daitokenkyoto」による発信などを展開し、より一層の参加者数の増加を図っています。また、新たな会場での実施、適切な参加費設定の検討などよりよい運営の検討を進めています。

1) 大学図書館問題研究会 関西 3 支部新春合同例会

「もしドラッカーが大学図書館をつくったら ～ワークショップ～」

日時：2012 年 1 月 14 日（土）13:30～16:30

講師：市川充氏（AMULET（株）代表取締役）

場所：京都市国際交流会館 第 2 会議室

参加費：無料

参加者数：26 名

2) 大図研京都ワンディセミナー

「ディスカバリーサービス：導入とその後について経験者が語る」

日時：2012 年 6 月 2 日（土）13:30～16:45

講師：飯野 勝則 氏（佛教大学図書館）

安東 正玄 氏（立命館大学図書館）

場所：キャンパスプラザ京都 第 1 会議室

参加費：大図研会員は無料／非会員は 500 円

参加者数：63 名

(2) 支部報

2011 年度は、会員の皆様から長年ご要望をいただいていた、支部報の電子化が過去分の遡及入力も含めて、151 号以降がついに完了しました。最新の 3 号分（半年分）はパスワードを設定し、京都支部の会員限定で公開するという運用により京都支部 Web サイトでの公開を開始いたしました。これにより、支部報へのアクセシビリティを格段に向上させることができました。

2011 年度刊行分につきましては、発行期日の若干の遅れは生じましたが、計画的発行に努め、所定の号数を発行しています。また、2010 年度から始まった連載企画「わたしの図書館紹介します」がある程度定期的に掲載されるようになり、より一層、会員間での情報共有が進むためのきっかけを提供することができました。加えて、新入会員から書店営業担当者まで、幅広い執筆者に原稿依頼をすることで、より多彩な誌面づくりに努めました。

2011 年度発行した支部報の目次は、次のとおりです。

- 1) 支部報 No.283 (2011/08/15 発行)
 - 大学図書館問題研究会第 34 回京都支部総会を開催しました
 - 2010 年度活動総括及び 2011 年度活動方針
 - 2010 年度決算案及び 2011 年度予算案、会計監査報告
 - 2011 年度大学図書館問題研究会京都支部役員
 - 大学図書館問題研究会第 34 回京都支部総会 議事メモ・補足事項
 - 大図研京都ワンディセミナー「伝える技術を磨こう～比較文化の視点で発信力アップ～」参加報告（豊田哲也）
- 2) 支部報 No.284 (2011/10/15 発行)
 - 大図研京都支部「大図研について語る大忘年会！」開催のご案内
 - 支部委員 挨拶
 - 筑波大学主催「平成 23 年度大学図書館職員長期研修」参加報告（大綱浩一）
 - 第 42 回大学図書館問題研究会全国大会分科会（図書館経営）参加報告（安東正玄）
- 3) 支部報 No.285 (2011/12/15 発行)
 - 関西 3 支部新春合同例会開催のご案内
 - 信頼され、必要とされ、人が集まる場であり続けるために一学術情報基盤として、新たな存立意義の確立に挑戦する一（大綱浩一）
 - 京都支部のセミナー企画に参加しませんか？
 - 連続企画：わたしの図書館紹介します！ 紹介番号 2
滋賀医科大学附属図書館紹介（寺升夕希）
- 4) 支部報 No.286 (2012/02/15 発行)
 - 関西 3 支部新春合同例会開催のご案内(終了しました)
 - 図書館総合展に参加して（上山卓也）
 - 大学図書館問題研究会 関西 3 支部新春合同例会「もしドラッカーが大学図書館を作ったら～ワークショップ～」に参加して
例会初参加の感想（今野創祐）
 - 本の紹介 第 8 回 科学者として生き残る方法（坂本拓）

- 5) 支部報 No.287 (2012/04/15 発行)
- 大図研京都ワンディセミナーのご案内
 - 私の図書館 立命館大学 衣笠図書館 (安東正玄, 藤谷篤)
 - 別府だより～温泉に浸かってぼんやりと～ (藤谷篤)
 - 大学図書館問題研究会第 43 回全国大会のご案内
- 6) 支部報 No.288 (2012/06/15 発行)
- 大図研京都ワンディセミナーのご案内
 - 小特集: 大図研京都ワンディセミナー「ディスカバリーサービス: 導入とその後について経験者が語る」 参加報告
 - ディスカバリーサービス: セミナーそして懇親会 (小林明生)
 - 初めてのワンディセミナー (山上朋宏)
 - 探すことは楽しいこと (末田真樹子)
- 7) 支部報 No.289 (2012/08/15 発行)
- 大学図書館問題研究会京都支部第 35 回京都支部総会のご案内
 - 大学図書館問題研究会京都支部第 35 回京都支部総会議案
 - 京都支部委員の募集について
 - 大学図書館問題研究会 第 43 回全国大会 (京都) 終了しました

(3) Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

Web サイトでは、イベントのお知らせや、支部委員会の報告等、支部活動の記録を定期的かつ迅速に掲載しています。また、2011 年度は支部報記事の電子化に取り組み、151 号以降の一般公開を開始しました。ただし、最新 3 号については、パスワードロックをかけて会員のみアクセスできるように設定しています。Web サイトは 2012 年 8 月 23 日現在、13,429 アクセスを得ています (アクセスカウンター設置: 2006 年 8 月 22 日)。

メールマガジンは、「大図研京都支部 NewsLetter」として、no.126 (2011 年 7 月 2 日) から no. 155 (2012 年 8 月 18 日) を発行しました。支部活動をお知らせするものとして、従来の支部委員会議事録、支部企画案内等に加え、2011 年度からは支部報の発行を目次・概要とともに紹介する記事を配信しています。また、月 1 回のイベント案内を定期的に配信することに加え、京都近郊の大学図書館で開催される展示会等を紹介する記事を試行的に配信しました。なお、より読みやすい記事を目指して、配信時の件名に内容が分かる文言 (イベント案内、支部報発行、支部委員会議事録等) を追加しました。

さらに、Twitter の活用を図り、241 アカウントのフォロワーを得ています。忘年会やワンディセミナー告知、支部報や議事録の発行の広報を行いました。

(4) 組織活動

会員数は、2012 年 8 月 17 日現在 63 名で、2011 年度当初よりも 2 名減少しました。退職、転勤、会費延滞による退会者が 7 名であった一方で、新規入会者は 5 名でした。

ワンディセミナーや京都支部を中心に運営した全国大会は、多くの非会員に対しても大図研や京都支部の活動をアピールする場でもあり、会費の割引なども行いました。ま

た、セミナー案内チラシへの入会案内同封や個別の勧誘等を積極的に行うなどして、あらたな会員獲得に努めていますが、目標会員数 70 名には到達しませんでした。

(5) 財政

2010 年度に引き続き、会費納入率の向上に努めています。また、所定の会費徴収スケジュールに則った計画的な督促業務を行うことによって、低い未納率も維持しています。なお、各年度の未納率は次のようになっています。2008 年度 2%、2009 年度 5%、2010 年度 8%、2011 年度 14% (2007 年度以前は 0%。休会扱い 3 名を含む)。しかしながら 2010 年度総会で宣言した努力目標未納率 0%には至っていません。

なお、節約の結果として積み立てられた予備費を効果的に活用する方策として、有料の講師や連続セミナー等に向けての積立金を作成しています (2011 年度は使用せず)。

(6) その他

第 43 回全国大会は、2012 年 8 月 4 日～6 日の日程でコミュニティ嵯峨野にて開催し、参加者数は 161 人でした。

また、例年どおり「大学の図書館」の 1 号の編集を担当し、4 月号 (特集：これからの大学図書館政策) を作成しました。

※2011 年度の総会を 9 月に開催するにあたり、2012 年 7 月以降の状況も掲載しています。

2. 2012 年度活動方針

(1) 研究交流活動

- A) 研究交流活動は、会員の知的交流の場であると共に、非会員への広報でもあるという意味を再認識し、組織拡大への貢献も大きな柱といたします。
- B) そのためにも、地域における積極的な参加を促すため、京都および周辺地域の大学図書館等、関連する組織への広報も継続していきます。
- C) 企画内容については、時代にあったテーマと内容を設定するために、セミナー企画段階からの、会員の参加募集の試みを継続いたします。
- D) セミナー開催頻度としては、2012 年度も年 2 回程度を目標といたします。

(2) 支部報

定期発行と正確で読みやすい誌面の作成とともに、広く寄稿を求めかつ連載記事を企画することにより、コンテンツの一層の充実にも努めます。また、電子化によりアクセシビリティが高まったことをインセンティブに、自己啓発や会員間交流の場としてだけでなく、より多くの会員に「発表の場を提供する」支部報となるよう引き続き努力します。

(3) Web サイト、メールリングリスト、メールマガジン

京都支部の活動に関する情報をわかりやすくかつ迅速に提供するため、Web サイトを随時更新します。支部報記事の電子化・公開作業、コンテンツの拡充と会員間コミュニケーションの促進強化は今後も継続していきます。

また、メールマガジンをより読まれるような内容にする工夫を継続するとともに、Twitter アカウントの積極的活用を継続します。

(4) 組織活動

京都支部に求められるニーズ調査のための予算を計上し、どのような活動が求められているかを探ります。

目標会員数を 70 名として、ワンディセミナー等の活動を継続し、京都支部の持つ魅力を認識し、高め、入会者が大図研京都支部に在籍していることにより一層価値を見いだせるような活動を行います。

(5) 財務

所定の会費徴収スケジュールに従い、個々の会員へ個人別会費納入状況のお知らせや振込用紙の発送を行います。長期滞納者は引き続き、積極的な督促を行い、未納率 0% を目指します。退職等による会員減少に伴い、また支部会員 70 名の努力目標に向けて特別事業費を作成しました。2012 年度も積極的に新規支部会員増を目指していきます。

2010 年度総会ご意見により費目名称を研究交流会積立金から特別研究交流会企画費へ変更しました。また、事務処理方法として 2012 年度よりゆうちょ銀行オンラインバンクを活用していく予定です。

(以下の議案は当日配布します)

【第 2 号議案】 2011 年度決算及び 2012 年度予算案、会計監査報告

【第 3 号議案】 2012 年度支部役員選挙